

## "I have to keep working; I've entered into a contract with painting."

If life consists solely of waking, eating, and sleeping, the painter Yamada Masaaki (1929-2010) added another element to the list when he "entered into a contract with painting." Working incessantly for over half a century, Yamada's churned out some 5,000 paintings. Turning his back on fashions and other worldly things, and refusing to pander to anyone, Yamada devoted himself to his art in his studio on the outskirts of Tokyo. The body of work that emerged from this sustained effort met with awe and praise in a solo exhibition at Tokyo's Koh Gallery in 1978, leading Yamada to be belatedly championed as a hero of contemporary painting. In addition to a solo exhibition at the Fuchu Art Museum in 2005, Yamada's work has recently begun to receive acclaim in the West.

Due to Yamada's skilled craftsmanship, each of the artist's paintings is a carefully executed, high-quality work. At the same time, Yamada saw his works as part of a whole, maintaining the unique attitude that their continuity and consistency made them a single entity. Initially, this makes Yamada's work seem like a cool intellectual pursuit that was "edited" to conform to his intentions. But this 50-year exchange between the artist and his paintings was by no means uneventful. It was instead filled with uncontrollable contradictions and accidents, dramatic leaps and conflicts. Today, six years after the artist's death, we can survey Yamada's career and relish his prolific works as a manifestation of his extremely active life.

This exhibition, the first comprehensive retrospective of Yamada's work, presents a complete picture of the artist, who carved out a singular place in postwar Japanese art, by analyzing an enormous number of production notes, which were never made public during his lifetime, and a variety of research conducted by specialists in the last few years. In addition to assembling principal works from each era of Yamada's career, the exhibition includes works on



すべてキャンパスに油彩、Still Life no.51 | 戸屋市立美術博物館蔵、Still Life no.58/Still Life no.58/Still Life no.58/Work B.103/Work B.205/Work C.105 | 府中市美術館蔵、Work B.125/Work C.94 | 字都宮美術館蔵、Work C.40/Work C.258/Work C.268/Work F.20 | 千葉市美術館蔵、Work C.57/Work C.343 | 大阪新美術館建設準備室蔵、Work C.73/Work C.77/Work E.250 | 東京国立近代美術館蔵、Work C.86/Work C.400 | 東京 都現代美術館蔵、Work C.89/Work C.92│横浜美術館蔵、Work C.93/Work C.241/Work D.100/Work D.297│高松市美術館蔵、Work C.98/Work E.280│国立国際美術館蔵、Work C.114│宮娘県美術館蔵、Work C.138│ 新鴻市美術館蔵、Work C.273 | 埼玉県立近代美術館蔵、Work D.92 | 名古屋市美術館蔵、Work D.321/Work D.325 | 福島県立美術館蔵 \* 表面:Work C.73、Work C.86、Work C.89、Work C.92 (すべて部分)

Color no.34 1997-

【請演会】 「山田正亮の絵画について」

日時:3月11日[土]18:00-19:30

講師:中林和雄(東京国立近代美術館副館長/本展企画者)

会場:京都国立近代美術館1階ロビー

定員:先着100名 ※当日17:00から1階受付にて整理券を配布します。 【ギャラリー・トーク】

Work F.131 1992

日時:4月1日[土] 14:00-14:30 講師:平井章一(京都国立近代美術館主任研究員)

会場:京都国立近代美術館3階企画展示室 ※聴講無料。本展の観覧券が必要です。 開始10分前に1階受付にお集まりください。

【春休みワークショップ】 「だいへんしん! 山田正亮の絵画」

Color no.39 1997-

日時:3月18日[土]、25日[土]、4月1日[土]

Color no.56 1998-

12:00-15:00 (随時参加可能)

作品に登場する色だけを使って、オリジナルの絵を描こう。 予約不要。詳細は当館ホームページをご覧ください。

Color no.98 1999-





## 「描き続けたまえ 絵画との契約である」

もし仮に生きるということが、つきつめると起きて食べ寝ることの繰り返しであるならば、 画家山田正亮 (1929-2010) は、「絵画と契約する」ことによって、生きることに絵を描く営みを も加えてしまった人間です。50年以上ものあいだ、絶え間なく描き続けられた絵画作品の 数は、ほぼ 5,000点。彼は世俗や流行に背を向け、誰かにおもねることもなく、東京の郊外に 構えたアトリエで、ひとりで制作を続けたのです。その作品群は、1978年、康画廊(東京)で の個展で、驚きと称賛をもって迎えられ、以降、彼は、現代絵画の遅れてきた寵児として高い 評価を受けるようになりました。2005年に府中市美術館で個展が開かれたほか、近年では、 欧米圏でも注目を集めつつあります。

山田正亮の一点一点の作品は、常に熟練の技巧によって丹念に描きこまれた高質なものですが、その一方で彼は、自らの全作品をひとかたまりのものとしてとらえ、その全体の持続と整合性こそがまるでひとつの作品であるというような、独特な姿勢を保ち続けました。それは、一見すると作者の意図の通りに編集された、クールな知的探求のようにも見えます。しかし、50年に及ぶ作家と絵画とのやりとりは、実際には決して平坦なものではありえず、掌握しきれない偶然や矛盾、飛躍や相克のドラマに満ちてもいたはずです。作家の没後6年を経て、山田正亮の仕事を鳥瞰できるようになったいま、私たちは、夥しく繁茂する彼の絵画の総体を、作家の色どりある生きざまの発露として味わうことができるでしょう。

初めての包括的な回顧展となる本展では、生前公にされることのなかった膨大な量の制作 ノートの解析や、近年進められてきた専門家による諸研究を踏まえ、日本の戦後美術において 唯一無二の活動を見せた山田正亮の全体像をご紹介します。各年代の主要な作品を網羅する ことはもちろん、多様な探究の足跡をうかがわせる紙作品、制作ノートなども展示することで、 山田正亮の作品総体の、複雑で魅惑的なあり様を体感していただける場を目指します。

2017年3月1日[水]-4月9日[日]

開館時間:9:30~17:00(入館は16:30まで)

休館日:毎週月曜日(ただし、3月20日は開館し、21日は休館)

観覧料:一般1000(800)円、大学生500(400)円

\*( )内は前売り、20名以上の団体料金 \*高校生以下および18歳未満は無料 \*心身に障がいのある方と付添者1名は無料(入館の際に証明できるものを提示ください。) \*本展の観覧料で、同時関催のコレクション展もご覧いただけます。\*前売券は、2月28日までの期間限定発売。前売券の主な発売場所:ローソンチケット(Lコード55217)ほか、主要プレイガイド、コンビニエンスストアなど(チケット購入時に手数料がかかる場合があります。)

主催:京都国立近代美術館、東京国立近代美術館 協力:一般社団法人山田正亮の会

## March 1, 2017-April 9

Hours: 9:30 AM-5:00PM, Admission until 30 minutes before closing.

Closed on Mondays (except March 20), March 21

Admission: ¥1,000 (advance, group admission ¥800), ¥500 (advance, group admission ¥400)

for university and college students

\* Free for high school students, under 18. Persons with disability and one person accompanying each of them are admitted free of charge.

\* The admission fee to this exhibition also entitles you to see Collection Gallery.

\* Advance tickets available at Lawson (L-code: 55217), and other convenience stores from January 12 to February 28, 2017
Organized by The National Museum of Modern Art, Kyoto, The National Museum of Modern Art, Tokyo
With the Cooperation of Estate of Yamada Masaaki

お問い合わせ: 075-761-4111 美術館ウェブサイト: http://www.momak.go.jp

平成28年度文化庁地域の核となる美術館・博物館支援事業 Supported by the Agency for Cultural Affairs, Government of Japan in the fiscal 2016

	至出町梅	丸太町通		
	神宮丸太町駅	平安神宮		
明	作泉道	和見 シアター 美術館 京都	出口 <b>P</b> P入口	四岭公園 駐車揚
二条道 御袍通 三	三条	みやこめっせ ● 京都国立 近代美術館	● 京都市 美術館	●動物園
三条通	三 条 駅 至淀屋橋・中之島	東山駅東大路通	神宮道	至於大津· 六地底 岡崎通

〈交通案内〉

JR・近鉄~バスをご利用の方▶ ◎JR・近鉄京都駅前 (A1のりば) から市バス 5番 銀閣寺・岩倉行「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ ◎JR・近鉄 京都駅前 (D1のりば) から市バス100番 (急行) 清水寺・銀閣寺行「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ

阪急電鉄・京阪電鉄~バスをご利用の方▶ ◎阪急烏丸駅・河原町駅、京阪三 条駅から市バス5番 銀閣寺・岩倉行「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車す ぐ ◎阪急烏丸駅・河原町駅、京阪祇園四条駅から市バス46番 祇園・平安神 宮行「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ

市バス他系統をご利用の方▶ ◎市バス他系統「岡崎公園 ロームシアター京都・ みやこめっせ前」または「東山二条・岡崎公園口」下車徒参約5分

地下鉄をご利用の方▶ ◎地下鉄東西線「東山」駅下車徒参約10分

※当館には駐車場がございません。同崎公園駐車場(地下)をご利用ください。※同 崎公園駐車場をご利用の有料入館者は、駐車場の割引(1台につき1回)を受けられ ますので駐車券をお持ちの上お越しください。